

2012年2月3日

各位

双日株式会社

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油漏洩事故の現状について（お知らせ）

当社が、国際石油開発帝石株式会社、および、独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)と設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社を通じて出資するブラジル連邦共和国北カンポス沖合フラージ油田に関しまして、昨年(2011(平成23)年)11月8日に確認された近傍の海上への油膜の広がりについて、現在の状況につき、日本側コンソーシアムのパートナーである国際石油開発帝石社からの情報を添付にお知らせいたします。

以上

平成 24 年 2 月 3 日

国際石油開発帝石株式会社

ブラジル、フラージ鉱区近傍における油漏洩事故について [第八報] (お知らせ)

国際石油開発帝石株式会社は、関連会社のインペックス北カンポス沖石油(株)を通じて出資するブラジル現地法人 FJPL 社 (Frade Japão Petróleo Limitada) により、ブラジル連邦共和国カンポス沖合のフラージ鉱区において石油の生産および開発作業を進めております。同鉱区において、昨年 (2011 (平成 23) 年) 11 月 8 日に確認された近傍の海上への油膜の広がりについて、これまでも経過につき逐次お知らせしてまいりましたが、現在の状況につき改めて以下の通りお知らせいたします。

本プロジェクトのオペレーター (操業主体) であるシェブロン社によると、油膜の確認以降、坑井の廃坑作業の一環として井戸のセメンチング作業 (井戸にセメントを充満し井戸を封じる) を行うとともに、周辺海域に事故対策船を動員し、オイルフェンスや海水面の油膜を吸収するスキミングを設置するなどして油膜の除去、洗浄作業を実施しました。油のしみ出しは発生から 4 日間で止めることに成功し、しみ出しの原因の調査分析を行っております。

これまでの漏洩量は累計 382m<sup>3</sup> (2,400 バレル) と推定され、現時点では海上の油膜は認められておりません。また、油の海岸への漂着や野生生物への影響も認められておりません。

なお、本プロジェクトの他の生産施設には影響がないことから、同鉱区からの原油生産は現在も継続しております。

当該事故に関して、シェブロン社はブラジルの関係当局から罰金に係る通知や損害賠償等を求める訴えを受け、必要な手続きを行っておりますが、FJPL 社としてもオペレーターであるシェブロン社を中心にパートナーとともに適切に対処してまいります。

「補足・関連情報」

ブラジル連邦共和国 フラージ鉱区 権益比率：

- ・シェブロン (オペレーター 本社：米国) 51.7%
- ・ペトロbras (ブラジル国営石油会社) 30%
- ・Frade Japão Petróleo Limitada (FJPL) ※18.3%

※当社、双日株式会社および独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) が設立したインペックス北カンポス沖石油株式会社のブラジル現地法人子会社

以上

【本件に関する問い合わせ】

国際石油開発帝石株式会社

広報・IR ユニット

03-5572-0233